

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	大町町立小中一貫校大町ひじり学園
-----	------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、後期課程の新学習指導要領の完全実施となる。さらなる学力向上を目指し、9年間を見通した授業改善に取り組んでいきたい。 教職員の働き方改革については、少しずつ進んでいる。次年度も継続して働き方改革を進めていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>「大磨 智誠」～知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す～</p> <p>↓</p> <p>「夢に向かって絆・全力・挑戦」～夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導の工夫を図る。 ②キャリア教育の充実を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員による共通理解と共通実践 ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上にする。 ○授業の中で学習用パソコンを活用したことができたと感じる児童を70%、生徒を90%以上にする。 ○「宿題や課題、あすなろワークを忘れないでいる」と肯定的に回答している児童生徒を80%以上にする。 ○授業改善リーフレットと授業評価アンケートを使って自らの授業改善をしている教師を100%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●共通実践についての共通理解の場をもち、意識化を図る ●「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し、授業づくりへの意識向上と授業のレベルアップを目指す。 ●学習規律について、共通理解の場を設定し、「学習のルール」に準じた指導をする。 ●パソコン活用の実践交流の場を設ける。アンケート、研修会の実施 ●「学習のルール」に準じた家庭学習時間の指導をする。 ●授業改善リーフレットを活用した授業チェック ●授業評価アンケートの実施 ●校内研究での授業研究会・研修 	<ul style="list-style-type: none"> B A A A
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●生命尊重、思いやり等の道徳授業の実践 ●本物に触れる体験活動の取組 ●平和集会、人権集会の取組 ●Q-Uの実施、心のアンケート（毎月） ●教育相談部会（月末火曜日6時間目） ●小中合同生徒指導・教育相談連絡会（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> A B 	<ul style="list-style-type: none"> ●命や思いやりの大切さを考えられている児童生徒は94.3%いる結果となり、中間評価を上回った。中間評価後も継続して命や思いやりの大切さを考える指導ができていたことが要因だと考えられる。次年度も引き続き、90%以上の児童生徒が命や思いやりの大切さを考えられる環境づくりを行ってきたい。 ●具体的取り組みを1年間継続して、実施することができた。また、学校全体で問題行動発生時は、情報共有を行った。 ●小中合同生徒指導・教育相談連絡会の頻度を増やし、義務教育学校としての仕組みを見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> A B 	<ul style="list-style-type: none"> ●よい学校づくりがされていると思う。 ●けがや食事をかかっている子が多い。命そのものは、もちろん、それにつながる体の大切さも理解しているといふと思う。 ●いじめが起こったとき、学校は被害者、加害者の同席で話していますか？ ●具体的な取組とは？ ●いつでも十分であると取組んでいないで取り組んでいただきたい。 	
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○防災教育・安全教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を、小学生95%、中学生95%を目指す。 ●登校指導・各種訓練・危険箇所の点検見回りを行い、その結果を集会等で指導に生かす。 ●防災についての講話や体験を行い主体的に行動する態度や支援者としての育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> A B B 	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は、小中合わせて約98%であった。 ●5年生の家庭科の学習で食に関する指導を栄養教諭も共に行い、理解を深めた。 ●給食委員会で残食調査や給食センターの仕事を紹介することで、食への関心を高めることができた。 ●各種訓練指導を発達の段階に応じて行った。自転車の交通安全が年度初めにあったが、交通安全マナーについて指導を行い、その後は事故は起きていない。 ●災害時において取るべき行動について正しく理解している児童は約95%であった。来年度も各種訓練を継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> A B B 	<ul style="list-style-type: none"> ●よい学校づくりがされていると思う。 ●外部の専門の指導者からの刺激を受けることができたと思う。 ●運動量の確保を。個に応じた体育の授業の実践をしてほしい。 ●日曜日に昼食を食べずに遊んでいる子があまりにも多い。 	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ●毎週水曜日午後は職員裁量時間として運用 ●定時退勤日（水・金）の設定 ●長期休業中の学校開庁日の設定 ●部活動休業日の設定 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> ●月の超過勤務の平均時間は38.4時間→29.8時間と昨年度と比較して約9時間減少した。 ●月の超過勤務平均45時間を超えた人数は15名→5名と昨年度と比較して10名減った。 ●次年度もさらなる働き方改革を進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> ●夜遅くまで電気がついていて、先生方の負担が心配。 ●PTA業務の簡素化、デジタル化。 	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が夢や誇りをもち、社会をたくましく生き抜くための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした6年生児童、9年生児童85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ●学期の始めや終わり、行事や活動後など計画的にキャリアパスポートに記述させる。 	<ul style="list-style-type: none"> A 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校評価アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした6年生は88%、9年生は90%であった。目標数値を上回ることができたといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> A 	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育は、子どもたちの「学力向上」「心の教育」「健康・体作り」と関連するが、先生方は努力されていると思う。 ●「夢に向かって絆・全力・挑戦」のキャリア目標が形骸化していないか。先生方の意識はあるのか？ ●町内のいろいろな職業の方にお話をさせていただくことは、講師となる大人も子どもたちとの関りができ、勉強になると思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上については、研究主任を中心に、県の小中連携による学力向上推進地域指定事業により、「大町型授業」について共通理解をはかりながら、「授業改善セット」を使って授業改善に取り組むことができた。来年度は、さらに主体的な学習態度を育成し、学力向上と体力向上を図ってきたい。また、学習用パソコンの活用についても推進してきたい。 ●コロナ感染症の対策を行い、児童生徒が夢や誇りをもちよう体験的な行事や地域と連携した学習を行ってきたい。「将来の夢や希望をもつ」「志をもつ」児童生徒を育成するため、大町町教育委員会と連携して5年生以上の志教育を進めていきたい。 ●教職員の働き方改革については、水曜日の4時間授業と教科担任制の推進により、昨年度より大幅に改善されてきている。来年度も教職員の負担軽減を行うシステムの構築と職員の意識改革をさらに行ってきたい。
----------------	---